

作成 令和4年12月22日  
摂津市議会議員 松本暁彦

令和4年第4回定例会一般質問

～本会議3日目・令和4年12月20日～ 議事録(抜粋)

## 5 児童虐待防止での保護者ケアの重要性について

### 質疑概要

11月29日の市主催の森田ゆり先生の講演「虐待は見守りでは防げない、対話力が必要」では、児童虐待防止において、見守りでは限界があり、対話力を高めることの必要性と、外的アプローチだけでは不十分で、家庭内のストレスを高めること、すなわち家庭・保護者自身の改善が必要と講演されていた。その事を踏まえた児童虐待防止の取組みについて質疑を行った。

### ○松本議員

5 児童虐待防止での保護者ケアの重要性について、まず市は警察との情報連携の協定を先日結ばれましたが、この協定について、その経緯と概要、その効果についてお聞かせ下さい。

(略※)

### ○福住議長

次世代育成部長

### ○次世代育成部長

児童虐待における警察との情報共有の協定締結についてのご質問にお答えいたします。

昨年度の3歳児虐待死亡事案に関わる大阪府の検証委員会の報告書におきまして、「警察との連携により、早期の児童の安全確保や抑止力にも繋がるのではないかと提言がなされておりました。

本市といたしましても、警察との連携につきましては、課題と認識しておりましたので、大阪府警本部に情報共有の協定について打診を行ったものでございます。

協定の概要でございますが、平成30年に厚生労働省から発出されました「児童虐待への対応における警察との連携の強化について」の通知文で示されております「児童の生命、身体に危険が及ぶ恐れのある外傷等を伴うもの」、「子どもの面会ができないなど安全確認に関するもの」、「一時保護等の解除に関するもの」、「その他児童の安全を確保する上で注意を要するもの」など、といった情報につきまして、警察と共有することで、児童虐待の早期発見や被害の未然防止につなげるものでございます。

[想いを言葉に、言葉を形に、形から実践へ。]

効果につきましては、協定という形で明文化したことにより、警察との連携がより実効性のあるものとなり、児童虐待の早期対応、重大事案の未然防止につながることを期待され、本市の子どもの安全安心に大きく寄与するものと考えております。

(略※)

### ○松本議員

次に児童虐待防止について、警察との情報連携の協定締結については高く評価致します。その取り組みは児童虐待防止における外的アプローチを強化したといえます。

ただ、先日の市主催の森田ゆり先生の講演「虐待は見守りでは防げない、対話力が必要」では、見守りでは限界があり、対話力を高めることの必要性と、外的アプローチだけでは不十分で、家庭内のストレスを高めること、すなわち家庭・保護者自身の改善が必要と講演されていました。

そこで児童虐待防止での内的要因の改善について、どうお考えかお聞かせ下さい。

### ○福住議長

次世代育成部長

### ○次世代育成部長

児童虐待通告が入れば、家庭児童相談課内で協議を行った上で、関係機関と連携しながら、速やかに保護者へアプローチを行い、指導を行っておりますが、しかしながら虐待に至った理由を確認しますと、「しつけのつもりで叩いてしまった」、「自分も叩かれて育ってきた」など、体罰を容認したり、「言うことを聞かないのでつい手が出た」など、子供の発達特性を理解できていなかったりするケースもございます。

一過性の指導に終わらず、児童虐待を繰り返すことのないよう、支援的に関わることが大切であると認識しており、虐待に至った理由や抱えている課題を丁寧に聞き取った上で、子育てへの困り感を出された保護者に対しては、家庭児童相談課の心理士が継続的にカウンセリングを行い、保護者へのケアを行っているところでございます。

### ○福住議長

松本議員。

### ○松本議員

保護者ケアを一定行っていることは理解しました。

児童虐待防止には外的アプローチ強化と内的要因の改善という両方の対応が必要です。

これまで外的アプローチは相当に強化されました。それを踏まえれば、内的要因の改善にももっと力を入れるべきではないでしょうか。どうお考えかお聞かせ下さい。

## ○福住議長

次世代育成部長

## ○次世代育成部長

心理士によるカウンセリング等で保護者ケアを実施しているところでありますが、中には、保護者自身が幼少期に激しい虐待を受けトラウマを抱えながら成人し、その時に味わった痛みや深い悲しみを、親になってから「怒り」という形で子どもにぶつけてしまうケースもございます。

決して、虐待は許されるものではございませんが、加害者である保護者自身もまた実は、被害者であるという場合もございます。このような長年心に傷を負ってきた保護者には、虐待指導や心理士によるカウンセリングだけでは、繰り返される虐待に終止符を打つことが難しい状況もございます。

そこでより専門的スキルを要したファシリテーターを養成し、保護者の内面に寄り添いながら、感情、身体、身辺等に働き掛け、保護者の「セルフケア」と「問題解決力」を回復させ、虐待の言動を終始させることを目的とする「親支援回復プログラム」が効果的と考えており、今後、導入について検討して参りたいと考えております。

## ○福住議長

松本議員。

## ○松本議員

「親支援回復プログラム」を検討していると理解しました。

是非とも内部要因の改善と外的アプローチの強化によって総合的な取り組みで児童虐待防止を更に進められるよう要望致します。

子ども達を守り、そして健全な育成へ導くその取組みが今、求められています。宜しくお願い致します。

(音声データ等より作成)

重要と思われる部分には強調を入れています。

※当該質問に関係のない他の質問項目の部分は省略しています。

### <一般質問・項目一覧>

- 1 増加する救急出動数や火葬件数等と超過死等の状況について
- 2 新型コロナワクチン接種
  - (1) 副反応による健康被害と情報提供について
  - (2) 制度開始から過去最多の健康被害認定と救済制度申請への支援について
  - (3) 乳幼児接種等への希望申請制について
- 3 加速する少子化に対する子育て支援策強化の必要性について
- 4 子どもの居場所づくりの強化について
- 5 児童虐待防止での保護者ケアの重要性について
- 6 マスク着用の弊害と黙食等の小中学校の対応について

[想いを言葉に、言葉を形に、形から実践へ。]